

名古屋港水族館の機能向上に向けた  
基本計画（素案）

令和7年11月  
名古屋港管理組合

# 目次

はじめに .....	1
第1章 名古屋港水族館のあり方 .....	2
1 これまでの名古屋港水族館について .....	2
2 これからの名古屋港水族館について .....	3
3 機能向上に向けて .....	5
第2章 名古屋港水族館の新たな施設概要 .....	7
1 展示・空間の演出方法 .....	7
2 現状の施設規模 .....	8
3 新たな施設概要 .....	9
4 得られる効果 .....	26
第3章 新たな水族館の実現に向けて .....	32
1 事業手法の検討 .....	32
2 効率的な整備手法に向けて .....	33
3 持続的な運営に向けて .....	35

## はじめに

名古屋港水族館（以下「本水族館」という。）は、名古屋港の更なるにぎわいを創出して海洋文化の普及を図ることによって、多くの県民・市民等に親しまれる港づくりを推進することを目的としており、2024（令和6）年度は入館者数240万人を超え、累計では6,000万人を超える方々に、レクリエーションのみならず、社会教育の場としても愛され続けている施設です。

本水族館は、1992（平成4）年の開館から30年以上経過し、設備や機器の老朽化や施設の陳腐化など、様々な課題によりニーズの変化に応えることが困難となっています。このため、引き続き多くの方々に愛され、より親しまれる水族館とするため、2023・2024（令和5・6）年度に名古屋港管理組合（以下「本組合」という。）議会において名古屋港水族館特別委員会を開催し、諸課題等について調査・検討を行いました。併せて、専門的知識を有する有識者などで構成された名古屋港水族館有識者会議を2023（令和5）年度から6回にわたり開催し、魅力ある施設であり続けるための機能向上のあり方について検討しました。

これらの結果を踏まえ、2025（令和7）年3月に「名古屋港水族館の機能向上に向けた基本構想（以下「基本構想」という。）」を策定し、策定にあたってはパブリック・コメントを通じて多くの方からご意見をいただきました。

基本構想では、新たな展示テーマ・コンセプトを設定すると共に、生き物を取り巻く社会情勢の変化や、気候変動による温暖化対策など環境問題への取組の必要性を踏まえ、様々な役割をつなげて融合させることで、新たな気づきや感動のきっかけを創出することを目指しています。そして、未来の地球環境を守るため、誰もが、居心地よく、つながりあい、水族に親しみ、楽しく学ぶ水族館の実現に向け、取り組んでいくことを示しています。

基本構想を具現化するため、この「名古屋港水族館の機能向上に向けた基本計画（以下「基本計画」という。）」では、今後予定している整備方式における要求水準策定に向けて、新たな水族館に求められる施設要件（新たな施設規模、演出プラン）等について整理しました。

今後は、基本構想で示した考え方や方向性と基本計画で示した具体的な方策を踏まえ、新たな水族館の実現に向けて取組を進めていきます。

## 第1章 名古屋港水族館のあり方

### 1 これまでの名古屋港水族館について

#### (1) 設置目的

本水族館は、名古屋港の更なるにぎわいを創出し、海洋文化の普及を図ることによって、多くの県民・市民等に親しまれる港づくりを推進することを目的として整備された施設です。1992（平成4）年10月29日に南館が、2001（平成13）年11月1日には北館が開館し、今日に至るまで多くの来館者に親しまれてきました。

国内最大を誇るメインプール（約13,400トン、60m×30m、最大水深12m）を有し、高い水の透明度によってプールの端から端まで見渡すことができるほか、水中観覧も可能です。このような規模も活かして、生き物が過ごしやすい生息環境を可能な限り再現するなど、多くの魅力を備えた施設となっています。

#### (2) 名古屋港水族館の課題

しかしながら、開館から30年以上が経過し、設備や機器の老朽化が進んでいます。また、展示や館内環境の陳腐化も否めず、来館者ニーズの多様化・高度化に十分に 대응することが困難な状況となっています。

さらに、気候変動をはじめとする地球環境の変化によって、海洋生態系や生き物の生命が深刻な影響を受けている現代において、本水族館が果たすべき役割も大きく変わりつつあります。そのため、地球環境の保全に対する意識の向上や行動変容を促す場としての機能の強化が求められています。

#### (3) 機能向上の方向性と必要な取組

このような状況を踏まえ、本水族館が今後も多くの人々に必要とされ、魅力ある施設であり続けるためには、以下の取組が不可欠です。

- ・老朽化した設備や陳腐化した施設の一体更新
- ・繁忙期等の混雑対策、安全対策など、館内環境や利便性の向上
- ・推奨する飼育基準を満たすことなど、動物福祉の観点の充実
- ・地球環境や海洋生態系に関する最新の知見を発信する展示機能の充実
- ・子どもから大人まで幅広い世代に学びと感動を提供できる教育・啓発機能の強化
- ・地域等多様な主体との連携による新たなにぎわいの創出

いま、世界的に高まっている地球環境保全への意識と社会的な機運を受け止め、これからの時代にふさわしい姿へと進化していく必要があります。人々の行動変容を促す契機として、本水族館の機能向上は、まさにいま取り組むべき重要な課題です。

## 2 これからの名古屋港水族館について

### (1) 基本計画の位置づけ

これからの本水族館のあり方については、2025（令和7）年3月に策定した基本構想において、その考え方や方向性が示されています。

基本計画は、基本構想に基づき、施設の具体的な概要や機能向上の内容などについて明らかにするものであり、将来にわたって本水族館が社会に貢献し続けるために、必要な機能や施設の要件を明確にし、段階的かつ着実な整備を推進していくことを目的としています。

### (2) 新たな展示テーマ・コンセプト

基本構想においては、未来の地球環境を守るために、今ある施設を活用しながら、「楽しく学ぶ」ことができる公共水族館を目指すという新たな考え方のもと、新しい展示テーマとコンセプトを設定しました。

この新たな展示テーマ・コンセプトの設定にあたっては、本水族館のこれまでの特徴である、過去から現在に至る「時間軸の旅（北館）」と現在の地球の「面的な旅（南館）」という構成を残しつつ、地球環境保全の大切さや命の尊さを実感できる展示へと深化させていくことを意図しています。

これにより、現在の地球環境が危機的な状況になる前に、何ができるかを考え、行動変容を促していくような「学びと気づきの場」として、本水族館の新たな展示価値を創出していきます。

### 新たな展示テーマ「未来への旅～海でつながる生命、未来へつなげる生命～」



### 新たな展示コンセプト

未来の地球環境を保全していきたい思いから、「従来の展示コンセプトを残しつつ、地球課題となっている「気候変動」を新たな視点として取り入れて深化させ、自然環境を保全して未来につなげる」ことを展示コンセプトとします。

### (3) 機能向上の考え方

機能向上の考え方は、基本計画の策定にあたっての基本的な指針であることから、上位計画である基本構想に示された内容の一部を、以下に抜粋して転載します。

#### ア 施設の機能のあるべき姿

現代のニーズにあった魅力ある施設であり続けるために、老朽化した設備や陳腐化した施設を整え直し、「水族館としての基本機能」を持続的なものとする必要があります。

#### イ 環境への配慮

地球環境にやさしい水族館を目指すために、生き物の安全な飼育環境を確保しつつ、設備の省エネ化や高効率機器の導入等により、環境負荷の低減に取り組みます。

#### ウ 多様なニーズへの対応

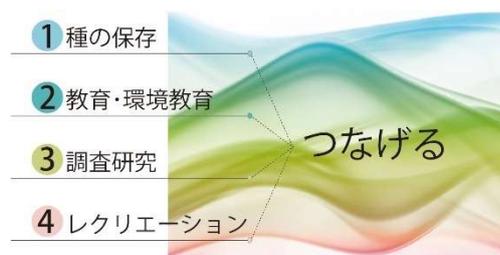
「誰もが楽しく学ぶことができる居心地のよい水族館」であるために、社会情勢の変化に即した多様なニーズに応え、多様な人が利用できる環境を整える必要があります。

#### エ 新たな機能「つなげる」

居心地のよい空間づくりを行い魅力ある施設であり続けて、役割を多様につなげて融合することで新たな気づきと感動のきっかけを創出します。

全ての可能性をつなげて融合することで、唯一無二の水族館となり、未来の地球環境を守るための貴重な循環を創出していきます。

役割をつなげる	…水族館の4つの役割※をつなげ、相乗効果を発揮
空間をつなげる	…スペースの有効利用、居心地のよい空間
多様な主体をつなげる	…新たなつながりの創出
デジタルでつなげる	…魅力の発信・交流を演出
世界へとつなげる	…名古屋港から世界へ発信・交流
心をつなげる	…持続的発展の好循環を生む



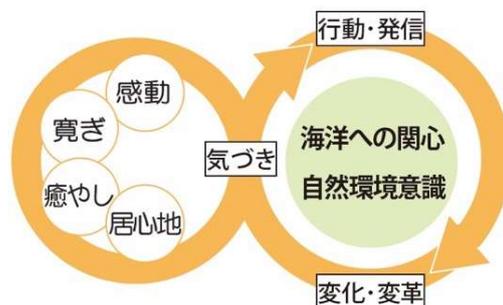
※水族館の4つの役割  
「種の保存」「教育・環境教育」  
「調査・研究」「レクリエーション」

## オ 環境保全への意識の育み

多様な展示や観覧方法を通じ、滞在型の水族館として水族と親しむ時間が増え、楽しみながら学ぶことができる機会が広がります。

その中で生まれる気づきや感動は、地球環境への興味・関心を高め、未来の環境を自ら考えるきっかけとなります。

一人ひとりが「自分ごと」として考え、意識の芽生えを促し、未来の地球環境を守るための行動につなげていくために、本水族館はより多くの人と一緒に考え、伝えていきます。



## 3 機能向上に向けて

本水族館の機能向上にあたっては、基本構想における考え方や方向性にに基づき、持続可能で質の高いサービスを提供できる、誰もが何度でも訪れたい水族館であり続けていくことを基本的な考え方とします。

### (1) 既存施設の有効活用

本水族館は、開館以来 30 年以上にわたり、多くの県民・市民等に親しまれ、愛されてきた施設です。こうした長年培われてきた思い出や役割を大切にしながら、今後も水族館の基本機能を持続的に発展させていくためには、既存施設を活かした計画的な整備が求められています。

これまでに実施した健全度調査において、適切な維持管理を継続することで、今後 30 年程度は引き続き既存施設を活用できることが確認されています。この結果を踏まえ、必要な改修・更新を計画的に実施しながら、機能向上に取り組んでいきます。

機能向上にあたっては、利用頻度の低いエリアを有効活用しつつ、機能や役割をつなげ、融合することで、限られた資源を最大限に活かし、ライフサイクルコストに配慮した持続的な施設を目指します。

### (2) 展示・観覧機能の充実

本水族館では、教育・研究機関としての役割を果たすため、地球環境の大切さを伝える展示や、種の保存に関する取組を紹介する展示の充実が求められています。また、陳腐化した展示パネルや解説については、最新のデジタル技術やインタラクティブな表現手法を取り入れ、楽しみながら学べる展示を目指します。

さらに、動物福祉の観点から、最新の飼育基準を踏まえた、動物が健康で生き生きと暮らせる環境づくりに取り組むとともに、生き物との適切な距離感を保ちながら、誰もが親しみを感じ、心の距離感が近づくような展示や空間演出を目指します。

### **(3) 環境負荷の低減と省エネルギー化**

本水族館は、気候変動やカーボンニュートラルなどに関する教育的取組を発信する施設を目指していくことから、生き物に影響のない範囲で、省エネルギー化や環境負荷の低減に取り組んでいきます。エネルギー消費量の少ない高効率な設備機器の導入を検討し、持続可能な運営とランニングコストの削減を図ります。

### **(4) 多様な来館者への対応**

本水族館では、団体客や外国からの来館者など、多様な方に対応できるよう、館内の案内や施設の機能の充実が求められています。分かりづらい表示やサインについては、多言語対応やデジタル技術の活用により、誰もが迷わず利用できる施設を目指します。

また、車いすやベビーカー利用者が安全・安心に観覧できるよう、通路や観覧スペースを整備するとともに、授乳室や多目的トイレの再配置や更新を行います。さらに、くつろげる空間を創出することで、より快適で誰もが利用しやすい環境づくりを目指します。

## 第2章 名古屋港水族館の新たな施設概要

### 1 展示・空間の演出方法

本水族館は、「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」という水族館の4つの役割を融合させ、海への理解を深め、生き物と人をつなぐ展示・空間を創出します。既存施設を活かしながら、展示の質と魅力をさらに高めます。

現状の課題は以下の通りです。

- ・ 生き物の多様な側面を学べる仕組みの不足
- ・ 教育・環境教育展示の拡充不足
- ・ 館内案内や看板の分かりやすさの不足
- ・ 来館者のニーズに応じた館内ルート案内の不足
- ・ 団体や、外国からのお客様など多様な来館者に対応できる施設・案内の不足
- ・ 貴重な研究活動の周知機会の不足

これらを解決し、唯一無二の魅力を生み出すため、次の展示・演出を検討します。

- ・ 生き物を間近で観察でき、標本や模型を用いて楽しく学べる展示
- ・ 五感に響き、没入感を体験できる独自の空間演出
- ・ 滞在しながら生き物を観覧できる居心地の良い空間
- ・ 最新デジタル技術による多言語対応や多様な利用シーンの創出
- ・ 気候変動やカーボンニュートラルなど、未来を見据えた環境啓発展示



間近で観察  
標本・模型で楽しく学ぶ



没入感を体験  
独自の空間演出



滞在しながら観察  
居心地の良い空間



最新デジタルで  
伝わる・つなげる



未来を知って  
地球をまもる

## 2 現状の施設規模

本水族館は、主に南館・北館・しおかぜ広場で構成される展示施設で、敷地面積は約5.6万㎡、延床面積は約4.1万㎡の規模を有しています。鉄筋コンクリート造を主体に、電気・機械・水循環などの基幹設備を備え、教育・研究・レクリエーションの各機能を支えています。本章では、各施設の規模や主要諸元を整理し、機能向上に向けた基礎情報を示します。

項目	内容
名称	名古屋港水族館（南館・北館・しおかぜ広場）
所在地	名古屋市港区港町1番3号
施設用途	展示施設
構造・階数	南 館：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 3階建 北 館：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 4階建
開館年月	南 館：1992(平成4)年10月 北 館：2001(平成13)年11月
敷地面積	約56,000㎡
建築面積/ 延床面積	南 館：約8,900㎡ / 約20,100㎡ 北 館：約10,400㎡ / 約21,700㎡
主な設備	電気設備：受変電設備、自家発電設備、照明等 機械設備：水循環設備、空調設備、給排水衛生設備等

施設規模および主要諸元表

### 3 新たな施設概要

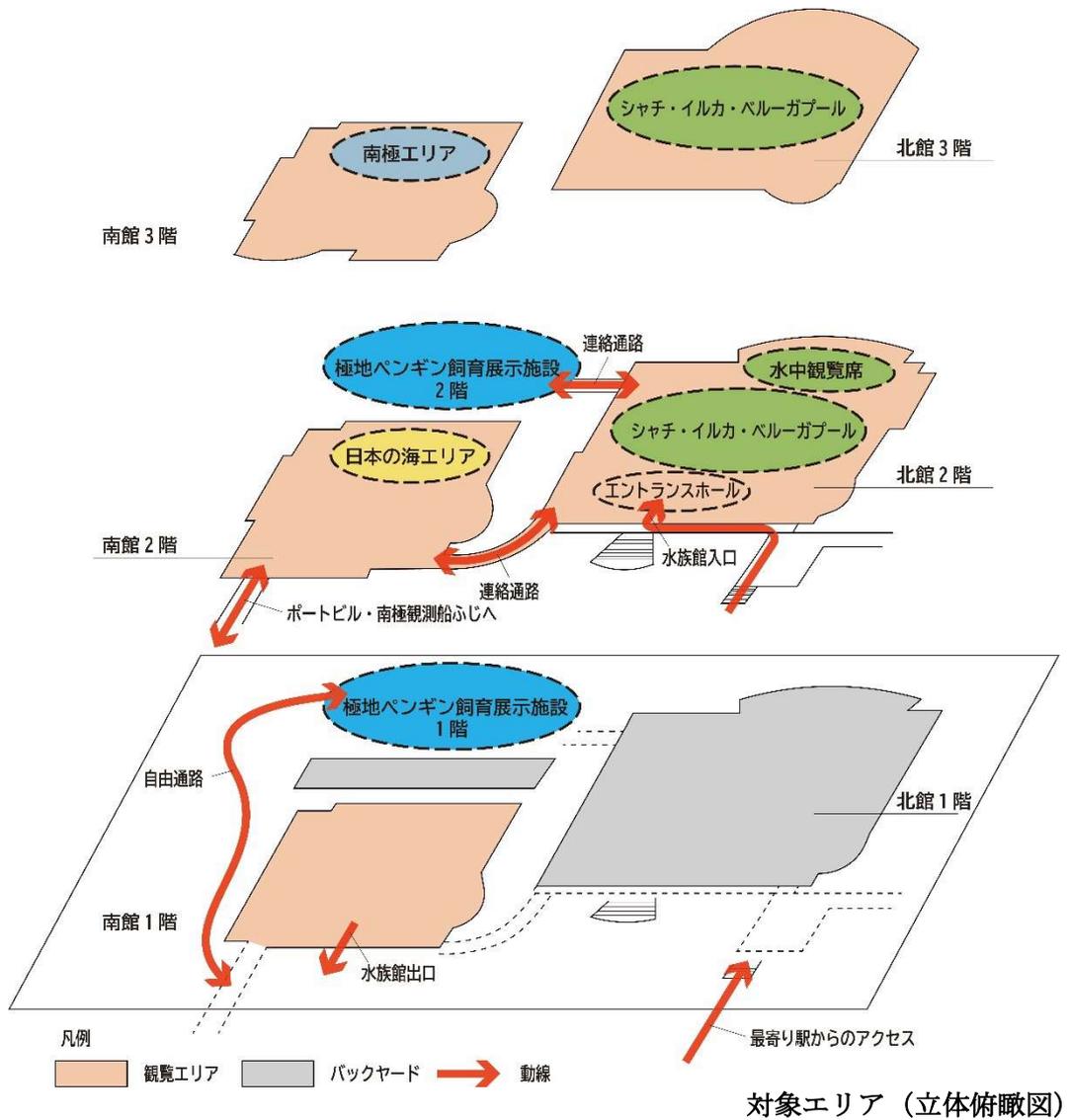
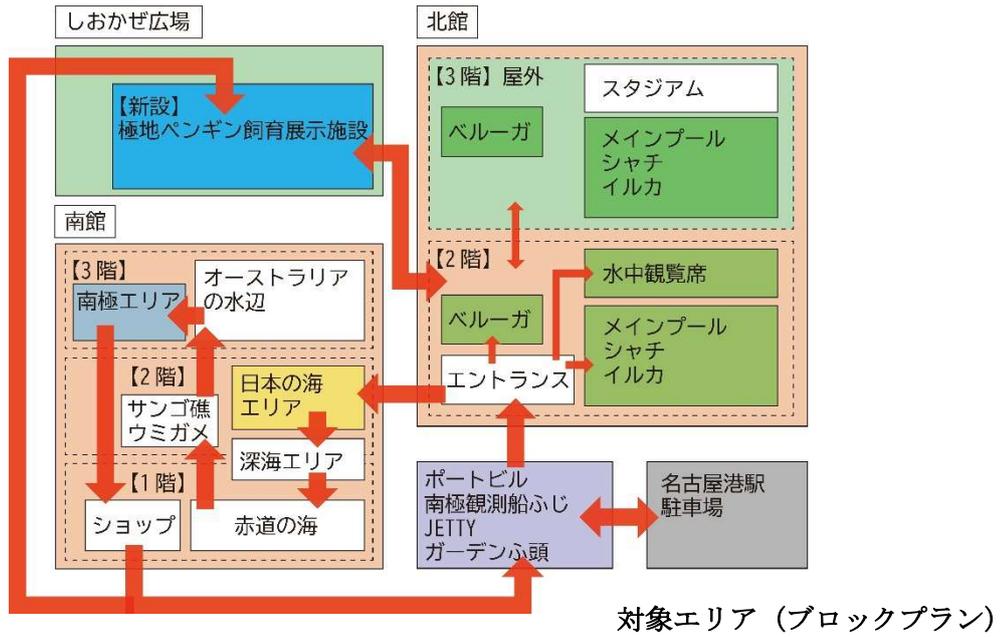
基本計画では、基本構想における「施設の機能のあるべき姿」「環境への配慮」「多様なニーズへの対応」「新たな機能“つなげる”」「環境保全への意識の育み」を基本的な考え方とし、限られた資源を最大限に活用しながら、各課題の解決を図ります。

これらの取組を融合させ、相乗効果を生み出す配置計画を目指します。新たな展示空間としては、新設する極地ペンギン飼育展示施設をはじめ、次のエリアを計画対象として選定しました。

- ・ 【新 設】 極地ペンギン飼育展示施設 (延床 約 3,500 m<sup>2</sup> 水量約 350 トン)
- ・ 【南館 3 階】 南極エリア (ペンギン水槽跡地等) (延床 約 1,600 m<sup>2</sup>)
- ・ 【南館 2 階】 日本の海エリア (延床 約 800 m<sup>2</sup> 水量約 820 トン)
- ・ 【北館 2 階】 水中観覧席/シャチ・イルカ・ベルーガプール  
(延床 約 700 m<sup>2</sup> 水量約 24,600 トン)
- ・ 【水族館全体】 エントランスホールほか



名古屋港水族館と周辺施設の位置関係



## 【新設】極地ペンギン飼育展示施設

『日本最大級の展示空間で、極地ペンギンを間近に観察』

『全天候型で、誰もが快適に過ごせる屋内スペース』

### 新たな施設規模

延床面積：約 3,500 m<sup>2</sup>

水 量：約 350 トン

展示する生き物：極地ペンギン（エンペラー、ジェンツー、アデリー、ヒゲの既存4種）

### 目指す姿（基本的な考え方）

ペンギンとの出会いを通じて、自然環境への関心と、地球環境の大切さを考えるきっかけを提供します。また、南極が地球を巡る海洋大循環の流域として、各地の気候に影響を及ぼす重要な場所であることを伝え、環境保全への理解を深めます。

### 演出プラン（新たな展示）

動物福祉に配慮した最新の飼育基準に基づき、ペンギンの行動特性に合わせた十分な飼育スペースを確保し、自然で健康的な行動をとれる環境を整えます。

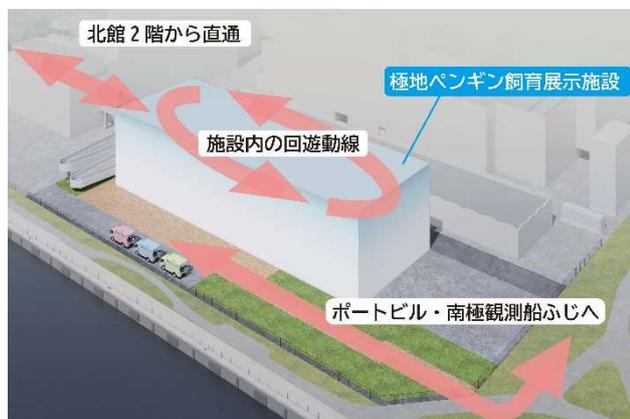
そのうえで、水槽の見せ方を工夫し、来館者がさまざまな視点からペンギンの自然な行動を学び、楽しめる展示空間を実現します。

さらに、気候変動を映し出す鏡である南極を、光・音・映像を駆使した五感に響くインタラクティブな演出で表現し、楽しく学べる仕掛けを加えます。

これらを実現するために、老朽化が進み、配管凍結や結露が発生して観覧に影響している既存施設に代わり、新しいペンギン飼育展示施設を新設します。

ペンギンがより快適に過ごせる新しい施設では、繁殖にもつながる健全な暮らしを支え、そこで得られた研究成果をわかりやすく発信・交流する場を提供します。加えて、来館者がゆったりと滞在しながら学びや体験を深められるよう、1階には団体客でも天候に左右されず快適に過ごせるまとまった屋内飲食スペースを整備します。

また、新しい施設を既存の施設と接続することで、ポートビルや南極観測船ふじとの回遊性も創出し、館内の混雑を緩和するとともに、来館者は快適に移動しながら展示を楽しむことができます。これにより、水族館周辺エリア全体のにぎわいや滞在時間・来訪頻度の向上など、魅力の向上にもつながります。



極地ペンギン飼育展示施設を介した回遊性の創出イメージ

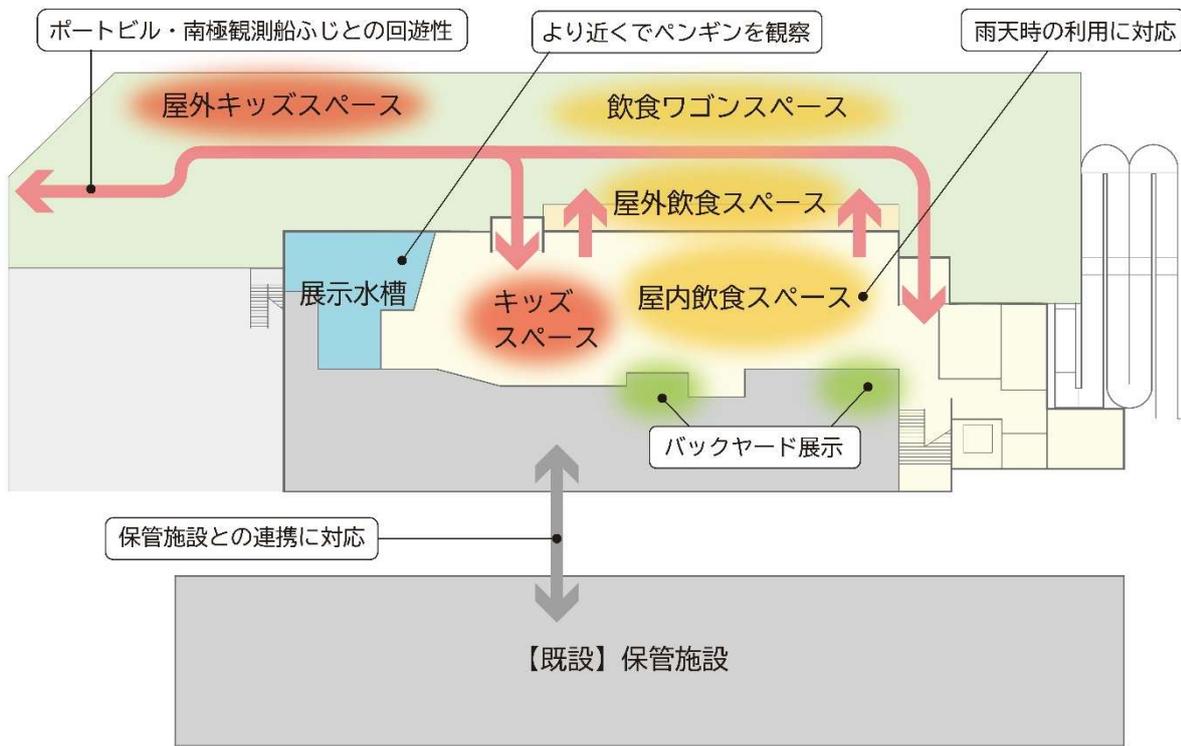
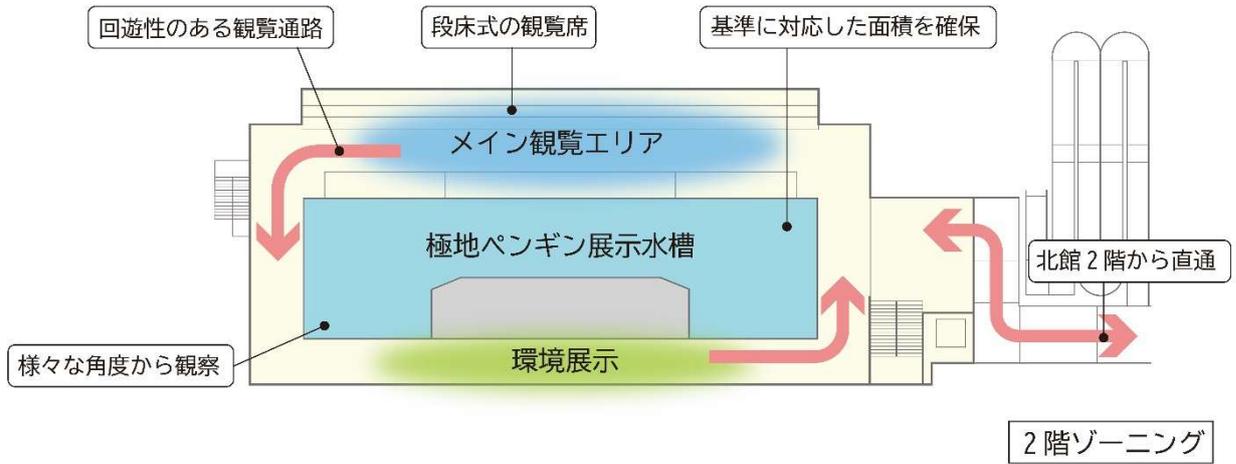


【新設】極地ペンギン飼育展示施設 2階 メイン観覧エリアイメージ



【新設】極地ペンギン飼育展示施設 1階 屋内飲食スペースイメージ

【新設】極地ペンギン飼育展示施設



エリア凡例

- 飼育展示エリア  
飼育生物を展示するエリア  
観覧エリアも含む
- 学習・体験エリア  
「見て・触れて・知って・感じて・楽しむ」エリア
- 飲食・休憩エリア  
飲食や休憩のエリア  
軽食等の販売も含む
- キッズエリア  
小さな子供たちの遊び・学びを促すエリア

その他凡例

- 観覧エリア
- バックヤード
- 展示水槽
- 観覧動線
- バックヤード動線

## 【南館3階】南極エリア（ペンギン水槽跡地含む）

『南極を通じて気候変動を学ぶ』

### 新たな施設規模

延床面積：約 1,600 m<sup>2</sup>

### 目指す姿（基本的な考え方）

「南極への旅」の目的地である南極を通じて、気候変動やナンキョクオキアミが果たす重要な役割を学べる場を提供します。また、海洋汚染が生態系に及ぼす影響と人間のかかわり合いについて理解を深めることができます。

### 演出プラン（新たな展示）

ペンギン飼育展示施設の移設に伴い、跡地を不足している環境教育エリアとして再整備し、南極を通じて気候変動を学び、学びの深化と行動変容を促す場を創出します。

地球規模での自然のつながりや環境保全に関する展示を、「見て、触れて、知って、感じて、楽しむ」体験型の教育展示として分かりやすく伝えます。

さらに、光や臨場感あふれる地球環境体験を通じて、環境への理解と意識を深められる展示空間を実現します。

また、誰もが利用できる幅にゆとりのあるスロープを展示通路として計画し、移動の快適性を高めます。

さらに、現在のエコアクアリウムを授乳室など不足するアメニティ施設に改修することで、来館者が快適に滞在できる環境を整えます。

最終的には、南極エリア全体を通じて、ナンキョクオキアミ等の生き物を介して気候変動や環境について学び、人と生き物とのかかわり合いを再認識できる、新たな教育展示を提供します。



【南館3階】南極エリア 南極ホールイメージ

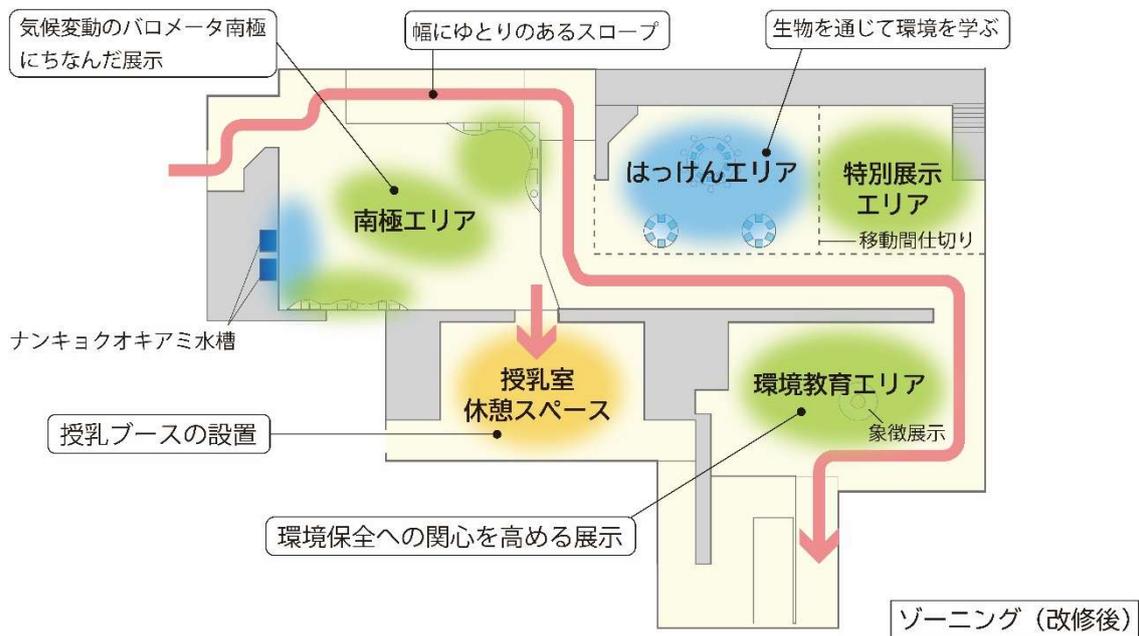
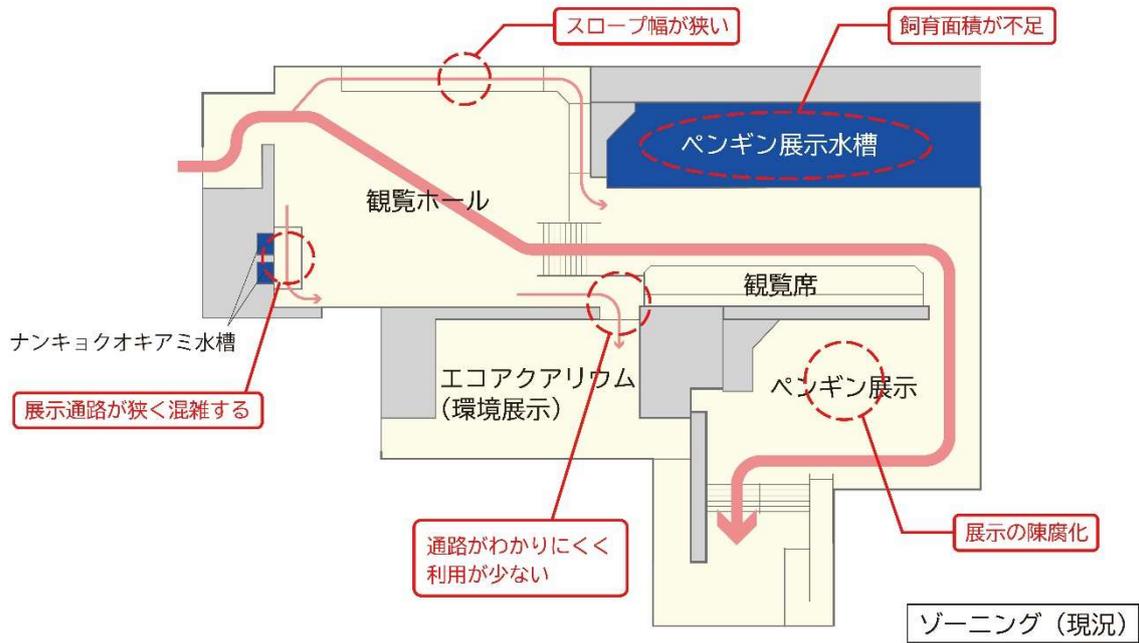


【南館3階】南極エリア はっけんエリアイメージ



【南館3階】南極エリア 環境教育エリアイメージ

【南館3階】南極エリア



エリア凡例

- 飼育展示エリア  
飼育生物を展示するエリア  
観覧エリアも含む
- 学習・体験エリア  
「見て・触れて・知って・感じて・楽しむ」エリア
- 飲食・休憩エリア  
飲食や休憩のエリア  
軽食等の販売も含む

その他凡例

- 観覧エリア
- バックヤード
- 展示水槽
- 既設水槽
- 課題
- 観覧動線

## 【南館2階】 日本の海エリア

『日本の海洋資源と、その大切さを知る』

『誰もが心地よく学び・楽しめる観覧空間』

### 新たな施設規模

延床面積：約 800 m<sup>2</sup>

水 量：約 820 トン

展示する生き物：日本近海の魚（マイワシ、スマ、シイラ等）

### 目指す姿（基本的な考え方）

日本の海を支えている魚たちの生息環境を知ること、持続可能な海洋資源の活用や食物連鎖について考えるきっかけを提供します。

### 演出プラン（新たな展示）

観客が滞留しがちな小水槽や陳腐化した水槽を集約し、混雑を緩和するとともに、バックヤードのろ過槽や配管を効率化して作業スペースを整理し、併せて老朽化した水処理設備も更新します。

さらに、観覧通路を拡幅して人の流れをスムーズにすることで、誰もが安全で快適に展示を楽しめる環境を実現します。

また、展示施設や演出内容を刷新し、常に新鮮で魅力的な展示環境を提供します。

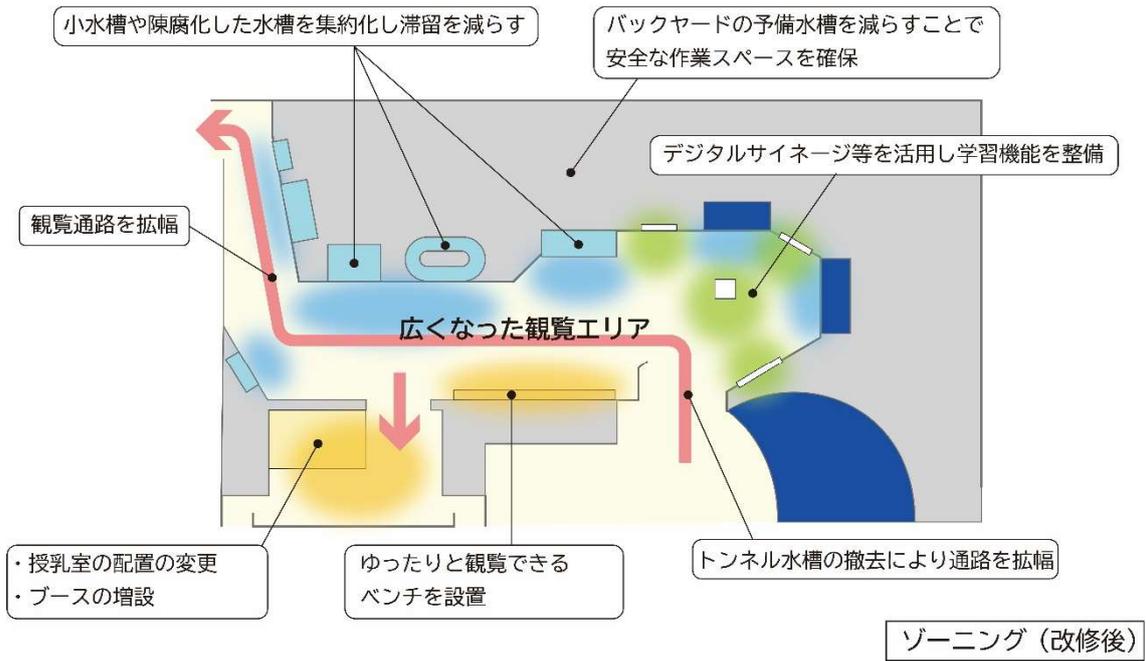
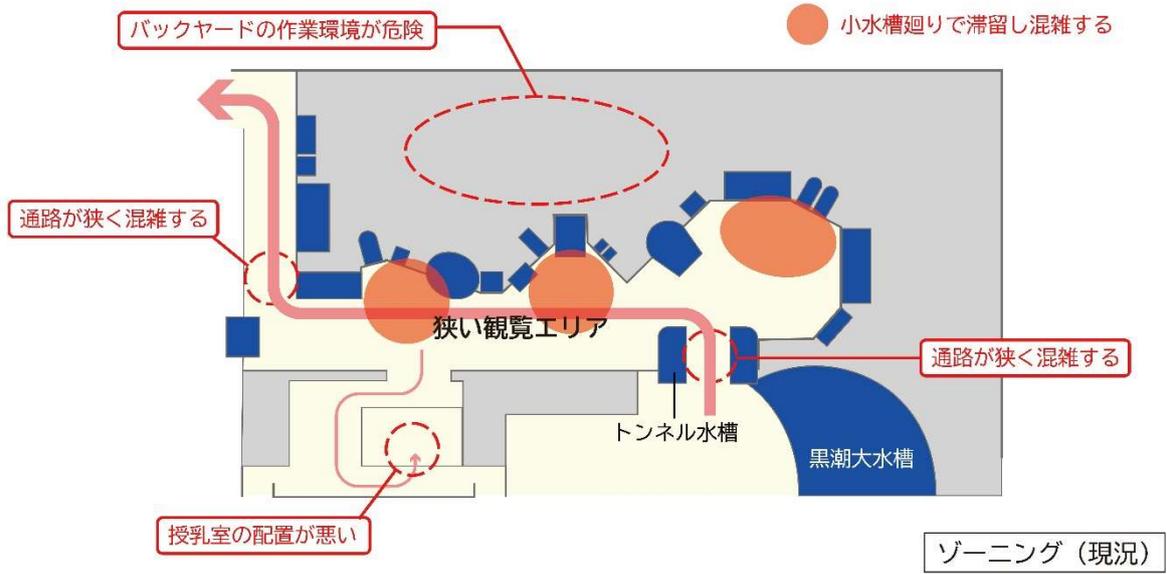
そして、「南極への旅」の出発点となる本エリアでは、生態展示に加え、映像や最新のデジタル技術を活用した展示を導入し、食物連鎖から日本の食卓に至るまでのつながりを「楽しく学べる」空間を創出します。



【南館2階】日本の海エリア 観覧エリア（手前側）イメージ



【南館2階】日本の海エリア 観覧エリア（奥側）イメージ



エリア凡例

- 飼育展示エリア  
飼育生物を展示するエリア  
観覧エリアも含む
- 学習・体験エリア  
「見て・触れて・知って・感じて・楽しむ」エリア
- 飲食・休憩エリア  
飲食や休憩のエリア  
軽食等の販売も含む

その他凡例

- 観覧エリア
- バックヤード
- 展示水槽
- 既設水槽
- 課題
- 観覧動線

## 【北館 2階】 水中観覧席／シャチ・イルカ・ベルーガプール

『野生本来の生態を観察』

### 新たな施設規模

延床面積：約 700 m<sup>2</sup>

水 量：約 24,600 トン

展示する生き物：鯨類（シャチ、バンドウイルカ、カマイルカ、ベルーガ）

### 目指す姿（基本的な考え方）

野生本来の迫力ある姿と、細やかな感情をあわせ持つ生き物を通じて、人と生き物のかかわりや共存について考えるきっかけを提供します。また、地球環境や生態系、そして種の保存の大切さへの理解を深めます。

### 演出プラン（新たな展示）

老朽化した擬岩を撤去し、はく離や落下による事故リスクを排除するとともに、プール防水を行うことで建物躯体の保全と水質の安定を確保し、安全な飼育・観覧環境を維持します。

来館者がゆったりと展示を楽しみながら飲み物を片手にくつろいで、長時間過ごせるよう、リラクゼーションシートやコミュニケーションデッキを整備し、居心地よい観覧空間を提供します。あわせて、利用頻度の少ない水中観覧席奥のトイレを改修し、授乳室やキッズトイレ等を増設することで、子ども連れでも安心して過ごせるなど、アメニティを向上させます。

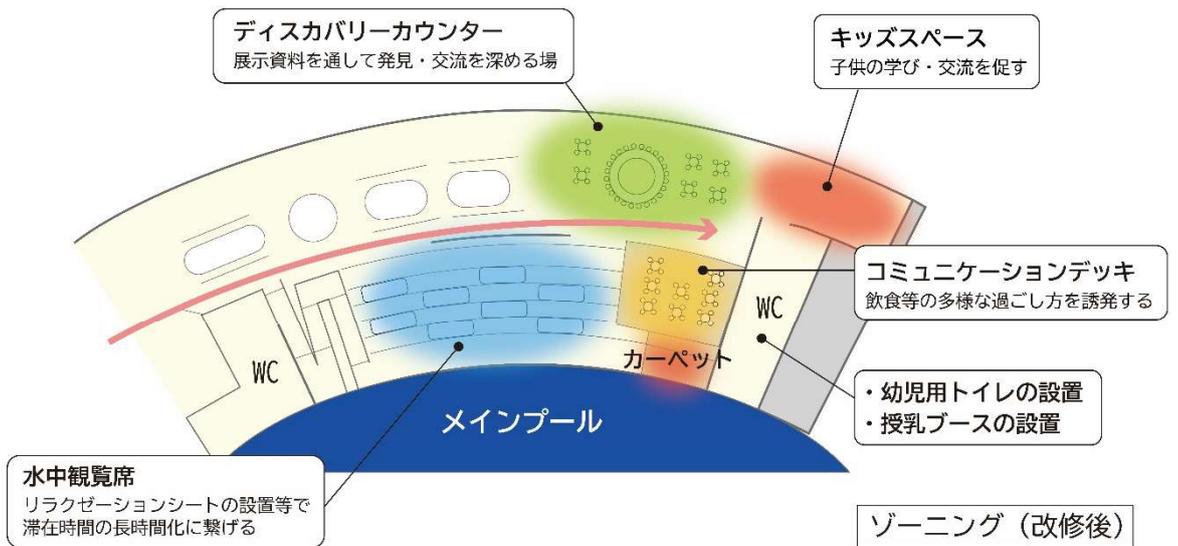
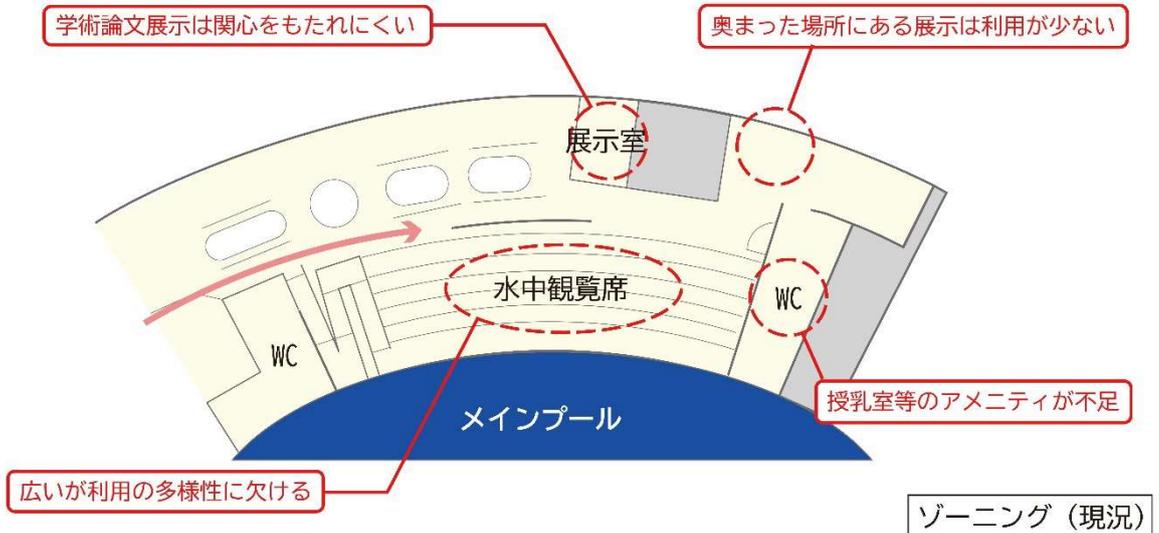
また、ディスカバリーカウンターやキッズスペースを充実させ、あらゆる層が親しみやすい学びの場を提供することで、繁殖・研究への取組をわかりやすく発信し、誰もが交流できる場を創出します。

これらを通じて、シャチ・イルカ・ベルーガが野生本来の生態を示す姿を間近で観察でき、自然な行動を深く理解できる学びの空間を実現します。



【北館2階】 水中観覧席のイメージ

【北館2階】水中観覧席



エリア凡例

- 飼育展示エリア  
飼育生物を展示するエリア  
観覧エリアも含む
- 学習・体験エリア  
「見て・触れて・知って・感じて・楽しむ」エリア
- 飲食・休憩エリア  
飲食や休憩のエリア  
軽食等の販売も含む
- キッズエリア  
小さな子供たちの遊び・学びを促すエリア

その他凡例

- 観覧エリア
- バックヤード
- 既設水槽
- 課題
- 観覧動線

## 【水族館全体】 エントランスホール、トイレ・授乳室、館内サイン

『多様なニーズに対応』

### 目指す姿（基本的な考え方）

誰もが安心して訪れ、多様なニーズに対応した快適な滞在ができる水族館を実現するため、館内動線やアメニティ、基幹設備を一体的に見直し、将来にわたり持続可能な運営が可能な施設へと進化させます。

### 演出プラン（新たな展示）

来館者を最初に出迎えるエントランスホールは、最新のデジタル技術とインタラクティブな演出を取り入れ、まるで海の中に入り込んだかのような没入感に浸れる空間を実現します。

さらに、デジタルコンシェルジュ等を活用して館内情報をデジタル化・多言語化することで、誰もが必要な情報をスムーズに得られ、快適な滞在と円滑な行動をサポートします。

トイレや授乳室は、使いやすい配置に見直すとともに、インタラクティブサイネージを活用して混雑を緩和することで、利便性と快適性を両立させます。

また、安全性と運営効率を高め、快適で安定した観覧・飼育環境を長期的に維持するために、共通基幹設備を一体的に更新し、省エネ等による環境負荷の低減も実現します。

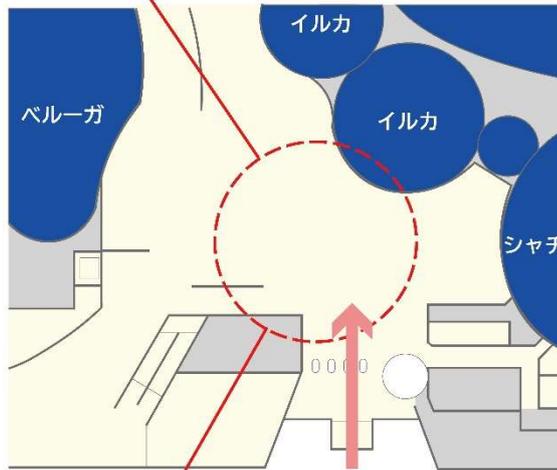
これらの機能向上を全体的に行うことで、安全性や快適性に配慮した施設への更新が実現し、来館者が安心して滞在できる環境を整備します。

さらに、館内案内表示の統一性を図ることで、展示・空間・案内が一体となった新たな水族館としての魅力と機能を提供します。



【北館2階】 エントランスホールのイメージ

展示全体のハブ空間だが、情報不足により案内性が十分でない

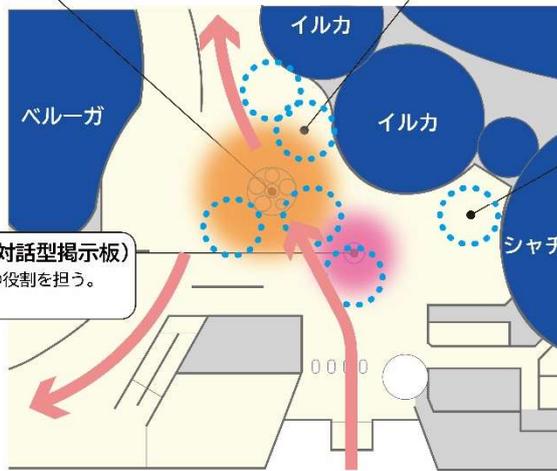


サインが目立ちにくく現在地、目的地がわかりにくい

ゾーニング (現況)

**デジタルコンシェルジュ (案内役)**  
館内のご案内、お困りごとの相談などの自動化によって業務効率化、案内性の向上につなげる

**サークルサイン**  
分岐点や迷いやすい場所には、天井・床面を利用した誘導サインを設置。



**波紋演出**  
マッピング演出で視覚的な案内を行う

**インタラクティブサイネージ (対話型掲示板)**  
音声による呼びかけなど、おもてなしの役割を担う。館内の迷いやすい場所に設置。

ゾーニング (改修後)

エリア凡例

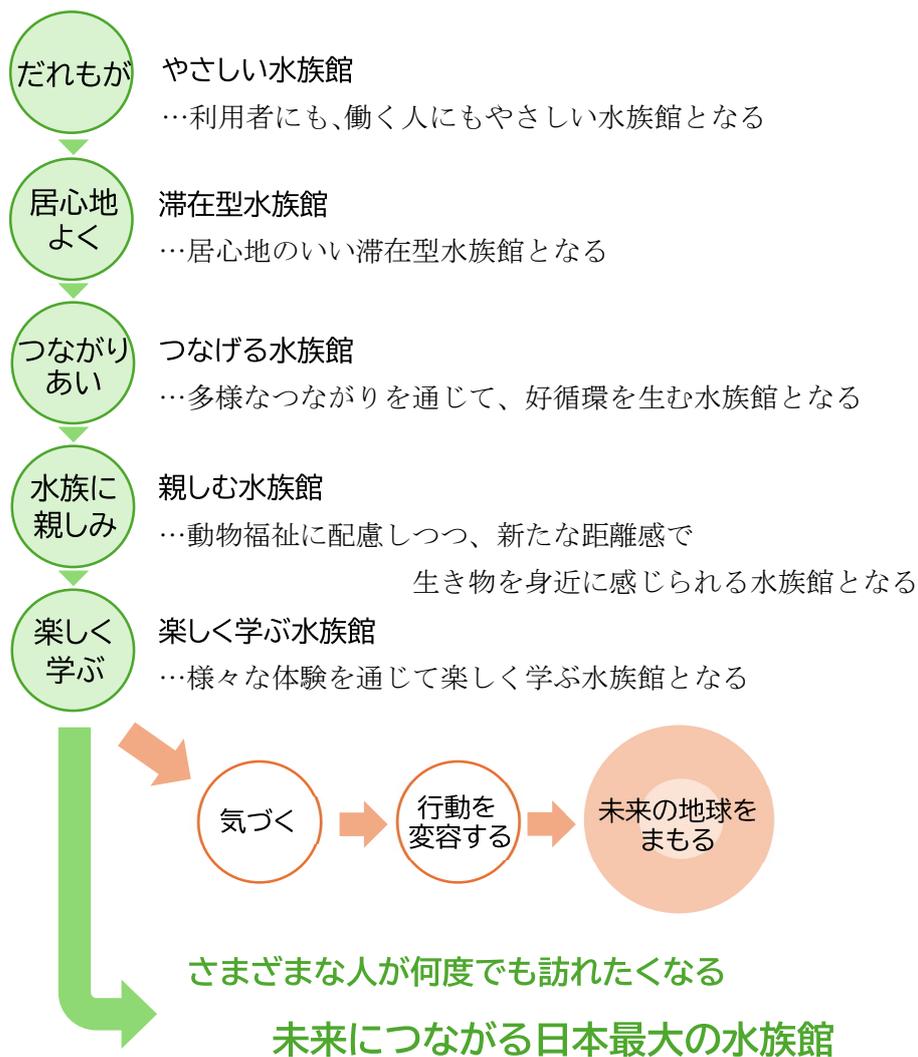
- デジタルコンシェルジュ
- インタラクティブサイネージ
- サークルサイン・波紋演出

その他凡例

- 観覧エリア
- バックヤード
- 既設水槽
- 課題
- 観覧動線

## 4 得られる効果

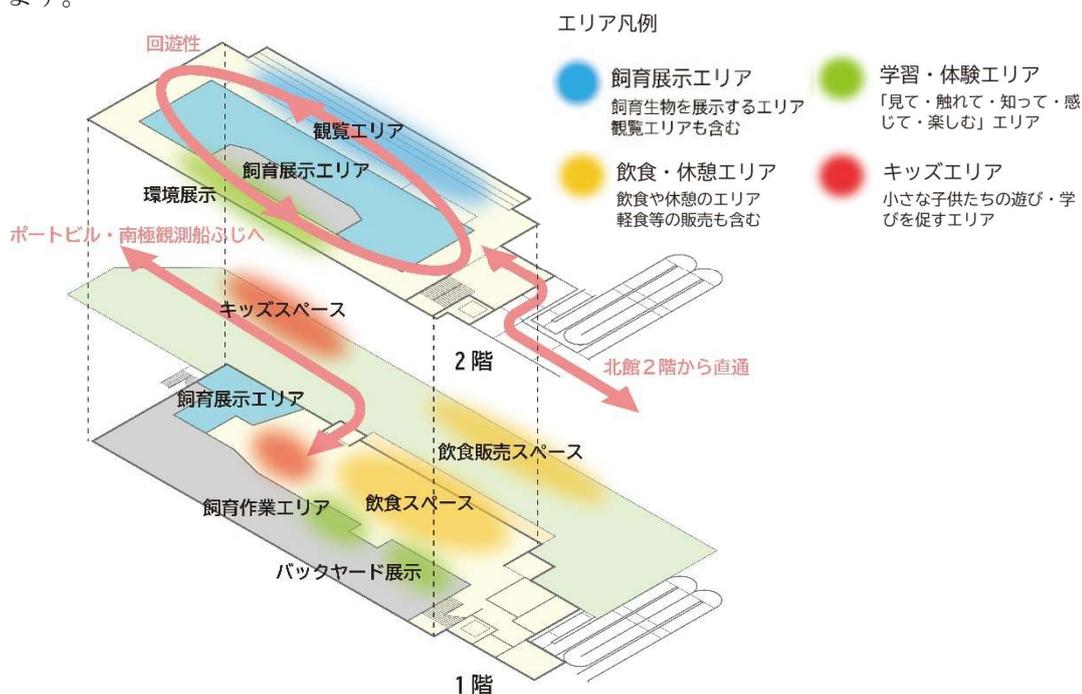
新設する極地ペンギン施設や各エリアの改修によって、混雑緩和や快適な観覧空間の確保、環境教育機能の充実、多言語対応の強化など、施設全体の機能を高めます。これらの取組を通して、基本構想で示した「やさしい」「滞在型」「つなげる」「親しむ」「楽しく学ぶ」未来につながる日本最大の水族館を実現します。



施設整備要件に沿った適切な規模を確保することで、展示や空間演出の効果を十分に発揮できる基盤が整います。これにより、安全性や快適性の向上、展示の魅力強化、滞在体験の充実など、次に示す多角的な効果が期待されます。

## (1) 極地ペンギン飼育展示施設の配置による効果

極地ペンギン飼育展示施設を新設することで、利便性・安全性・回遊性を兼ね備えた滞在型的水族館を実現します。間近で生き物を観察しながら学びを深められる展示や、段差のない広々とした安全な共用スペース、しおかせ広場との自由な往来による混雑緩和など、多様な来館者が快適で充実した時間を過ごせる施設となる効果が期待できます。



### 【体験価値向上】

- ・生き物を間近で観覧しながら、誰もが楽しく学ぶことができます。
- ・展示手法を工夫することで、生き物の多様な姿を楽しみながら観覧できます。
- ・五感に響く演出により、南極を身近に感じ、地球環境の大切さを考えるきっかけが得られます。
- ・生き物と人、人と人との互いにかかわり合い、心のつながりを感じられる体験ができます。

### 【滞在価値向上】

- ・中央にダイナミックに配置した飼育展示エリアは、館内の回遊性を高め、来館者が自由に移動しながら展示を楽しむことができ、混雑緩和も実現します。
- ・飼育展示エリアや観覧エリアと飲食スペースが一体的につながることで、ゆったりとくつろげる滞在型的水族館を実現します。

### 【誰もが楽しめる空間】

- ・段差のない広々とした空間は、ベビーカーや車いすの利用者を含むすべての人が、快適に観覧や休憩を楽しめます。

## (2) 動線の自由化による効果

動線の自由化に加え、駅からの複数のアプローチを可能にすることで、来館者の利便性と快適性を高め、展示や施設全体の魅力を最大限に引き出します。さらに、ガーデンふ頭全体での相乗効果も期待できます。



### 【体験価値向上】

- ・興味に応じて順路を選べることで、来館者が主体的に展示を楽しむことができます。
- ・館内外の多様な学びや体験とつながり、展示の価値をより深く感じることができます。

### 【滞在価値向上】

- ・動線の自由化により混雑が分散し、館内をゆったりと観覧することができます。
- ・館内や館外の休憩・飲食スペース、しおかぜ広場を自由に行き来できることで、ガーデンふ頭全体での滞在時間や満足度が向上し、しおかぜ広場にも新たな価値が生まれます。
- ・館内で快適に過ごせる環境を整えることで、多様な来館者が安心して楽しめます。

### (3) 新たな空間の創出による効果

新たな空間の創出により、混雑を緩和しながら快適な滞在環境を提供し、観覧や学びの質を高めることができます。実物展示とデジタル技術を融合した体験型の展示空間は、子どもから大人まで多様な来館者に新しい発見と楽しさをもたらし、滞在型的水族館としての魅力をさらに向上させる効果が期待できます。



北館2階水中観覧席



北館2階エントランスホール



南館2階日本の海エリア



南館3階南極エリア

#### 【体験価値向上】

- ・生態展示とデジタル技術の融合で、来館のたびに新しい発見や楽しさを体験できます。
- ・社会教育施設とレクリエーション施設が融合した、楽しみながら学べる体験型水族館を実現します。

#### 【滞在価値向上】

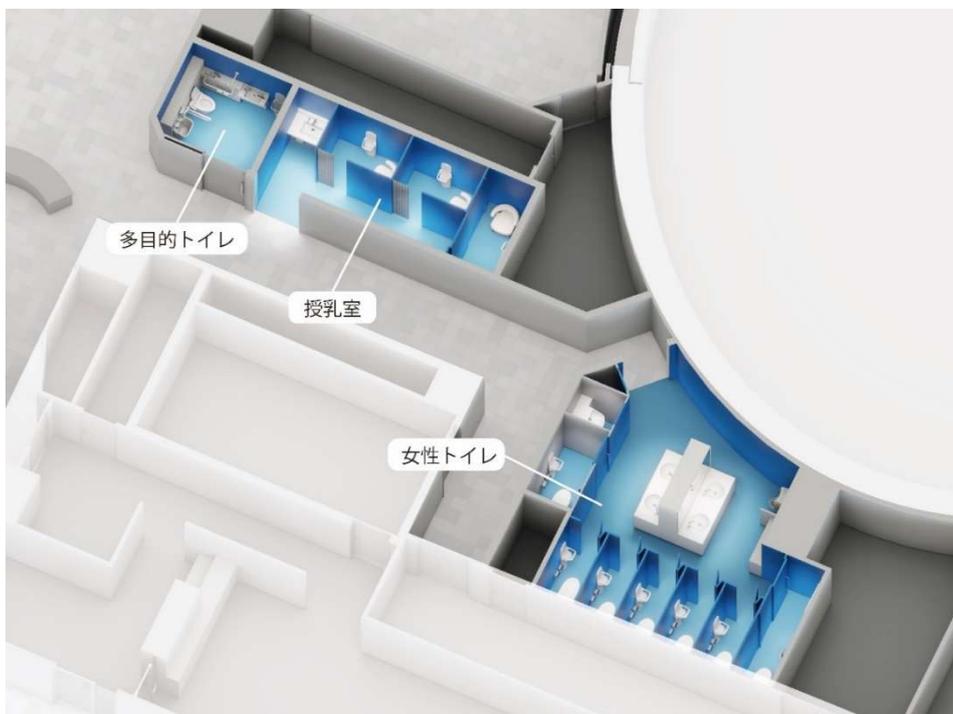
- ・観覧通路では、来館者がそれぞれのスタイルで生き物やデジタル空間を楽しむ、新しい過ごし方が可能になります。
- ・飲食スペースの併設により、くつろぎながら観覧できる環境を整えることで、満足感が高まり、ファンの増加が期待できます。

#### 【誰もが楽しめる空間】

- ・広くなった観覧通路は、ベビーカーや車いすの利用者を含むすべての人が、快適に観覧や休憩を楽しめます。

#### (4) 新たなアメニティ施設による効果

新たなアメニティ施設の整備により、誰もが安全で快適に過ごせる環境が実現します。使いやすさを高めたトイレや授乳設備により、来館者の利便性が大幅に向上し、安心して滞在できる施設となります。



##### 【体験価値向上】

- ・授乳室やキッズトイレの充実により、乳幼児連れでも安心して来館でき、展示や学びに集中できます。

##### 【滞在価値向上】

- ・誰もが快適に移動・休憩できる環境は、館内での自由度を高め、滞在型的水族館としての魅力を向上させます。
- ・女性トイレは個室を増やすことで混雑を緩和し、安心して利用できる環境を整えます。

##### 【誰もが楽しめる空間】

- ・多目的トイレの再配置により、必要な方が使いやすくなります。
- ・個室を広くしベビーチェアを備えたトイレは、小さなお子様連れでも安心して利用できます。

## (5) デジタルサイネージ、案内サインによる効果

デジタルサイネージや案内看板の高度化により、館内外の情報提供を分かりやすくスムーズに行い、来館者の利便性と快適性を大幅に向上させます。さらに、非常時には避難案内に自動切替する仕組みにより、安全性の強化にも貢献します。



案内看板

スマートフォンの連携

サインの統一・サインデザインの方向性（※館名称未定によりデザインはサンプル）

### 【体験価値向上】

- ・デジタル技術を活用した案内サインやスマートフォン連携により、目的の展示や施設情報にスムーズにアクセスでき、来館者の主体的な観覧体験を支援します。
- ・分岐点でAR案内を活用する等、館内ルートの分かりにくさを解消することで、快適に展示を楽しめます。

### 【滞在価値向上】

- ・案内サインを整備し、関連施設やガーデンふ頭等、館内外の回遊性を高めることで、滞在型的水族館としての魅力を向上させます。
- ・分かりやすい案内と快適な環境整備により、来館者満足度と施設全体の利便性を強化します。

### 【誰もが楽しめる空間】

- ・案内の視認性向上や多言語化等により、ベビーカーや車いす利用者を含む多様な来館者が、快適に館内を巡ることができます。

### 【その他価値向上】

- ・非常時には、デジタル案内サインが自動的に避難情報に切り替わり点滅して知らせる等、安全・安心な環境を提供します。

## 第3章 新たな水族館の実現に向けて

### 1 事業手法の検討

#### (1) 検討条件

事業手法の検討にあたっては、必要となる諸条件を以下のとおり整理し、本水族館の特殊性も加味して、整備手法及び運営手法について定性評価を行いました。また、民間の知恵と工夫を整備に生かす手法（PPP/PFI）の導入についても併せて検討しています。

#### ア 機能向上の早期竣工

施設の老朽化状況から、工事の早期竣工が可能か。

#### イ 社会教育施設としての機能の維持・向上

公共水族館としての「種の保存」や「調査・研究」の機能、社会教育施設としての「教育・環境教育」の機能の維持・向上が図られるか。

#### ウ 民間の能力を活用した創意工夫

民間の能力を活用した創意工夫により、魅力向上を図ることができるか。

#### エ 財政負担の総額の削減・平準化

公共の財政負担の総額が削減され、公平性の観点から平準化されるか。

#### オ 競争性の確保

事業参画の意向があり、競争性が確保されるか。

#### (2) 検討結果

民間活用手法（PPP/PFI）の導入については、一般的に費用削減効果が期待できます。しかし、本水族館の機能向上には既存施設の改修工事が含まれ、特殊な施設である水族館の設備改修においては、汎用品を利用する等の工夫が難しく、民間の知恵と工夫を活かす余地は限られています。また、競争性の確保や参画意欲のある業者の確保等の課題が残ります。

一方で、運營業務については、民間の経営視点を取り入れることで、より魅力的な施設づくりや安定的な事業運営が期待できます。

しかし、整備と運營業務一体での民間活用手法（PPP/PFI）では、民間事業者の決定に時間を要することから、早期竣工を目指す機能向上事業には適していないとの結果となりました。

これらの検討結果を踏まえ、運營業務における民間活用手法（PPP/PFI）の導入については切り離しを行い、施設整備について、本組合が主体となって段階的かつ着実な整備を行う方針としました。

## 2 効率的な整備手法に向けて

### (1) 採用する整備手法

技術提案・交渉方式（E C I 方式）

#### 【参考】

～技術提案・交渉方式を採用した背景～

今回の施設整備は、本組合が主体となって実施するものであり、一般的な公共事業では、設計の実施後に、その内容に基づいて工事費を積算し、予定価格を設定したうえで工事の調達が行われます。

しかし、当該施設整備は、水族館という独自性の高い施設・設備を対象としており、技術的な難易度が高い事業です。さらに、飼育生物への配慮が不可欠であることから、複数の工事や関係者との綿密な調整を行い、状況に応じて柔軟に対応しながら、限られた期間内で工事を完了させることが求められます。

これらの事情を踏まえ、施設整備においては民間活用手法（P P P / P F I）の導入は適していないと判断しつつも、事業実施を進めるうえで設計段階から発注者・設計者・施工者が協力し、民間の知恵と工夫を取り入れながら、施工者独自の高度で専門的なノウハウや工法が活用できる、「技術提案・交渉方式」が有効であると考えました。この方式を採用することで、技術的課題に柔軟に対応すると共に、事業を安定的に進捗させることが可能となります。

さらに、当該施設整備の実現にあたっては、設計者・施工者に加え、現在の指定管理者である（公財）名古屋みなと振興財団（以下「財団」という。）と協力し、一体となって課題解決に取り組むことで、さらに魅力的で持続可能な水族館づくりを実現していきます。



～用語の解説と機能向上事業への適用の必要性～

**【技術提案・交渉方式】**

技術提案・交渉方式は、「公共工事の品質確保の促進に関する法律」第18条の規定に基づき、当該工事の性格等により、発注者が仕様の確定をすることが困難な場合に適用されます。代表的な方式として、「設計・施工一括発注方式」と「E C I方式」があります。

具体的には、以下の工事が想定されます。

- ① 発注者が最適な仕様を設定できない工事
- ② 仕様の前提となる条件の確定が困難な工事

この方式では、「発注者の要求を最も的確に満たす技術提案」を公募・審査し、各者独自の高度で専門的なノウハウ、工法等を活用することで、品質の向上、コストの縮減、リスク低減、工期の短縮などの効果が期待されます。

**【E C I方式】**

E C I方式は、技術提案・交渉方式の一つであり、「設計段階から施工者が関与する方式」のことをいいます。設計・施工一括発注方式が設計と施工を同時に契約するのに対し、E C I方式は発注者が設計を主導しつつ、施工者のノウハウを早期に活用し、段階的に契約できる点に特徴があります。

**【機能向上事業への適用の必要性】**

本整備事業にE C I方式を適用するメリットは、以下のとおりです。

- ・飼育生物に配慮した工事が可能
- ・来館者に配慮した工事が可能
- ・最適な仕様の確定が可能
- ・一定水準の品質の確保が可能

## (2) 整備に向けて

整備に向けては、技術提案・交渉方式の制度や条件を整理したうえで、整備費及び整備スケジュールを、以下の基本的な考え方に基づき精査・確定していきます。

また、本計画を踏まえ、早期の実現を目指して着実に取組を進めます。

- ・技術提案・交渉方式により、設計仕様・工程・コストの最適化を図る。
- ・整備範囲や設備仕様等は現在検討中であり、事業者からの提案内容に基づき詳細を確定する。
- ・精査に当たっては、飼育生物への配慮や営業継続への影響最小化を優先項目とする。



※開館しながら整備し、  
完成したエリアから順次供用開始

## 3 持続的な運営に向けて

本水族館の管理運営は、現在指定管理者制度を導入しており、長年にわたり鯨類や希少生物各種の専門的な飼育繁殖技術、多種多様な生き物の特性を踏まえた継代飼育を安定的に継続する技術、種の保存や繁殖研究等に必要な技術、さらに国内外の大学や他園館等との信頼関係を有する財団が担ってきました。

一方で、多様なニーズへの対応や、来館者サービスなど、持続可能な管理運営体制の確立も課題となっています。

また、近年の物価上昇や燃料費高騰に加え、多くの施設や設備の修繕費が年々増加しており、現行の料金では水族館の健全な維持が困難な状況にあります。

将来に向けては、魅力ある施設であり続けるため、持続可能な社会の実現につながる施設運営や、効率的な維持管理について、民間活力の導入も視野に入れ、本水族館にとって適切な手法を関係者と協議しながら検討していきます。

また、今後も社会教育施設としての役割を果たしつつ、魅力ある施設として持続可能な運営を確保するため、適切な時期に料金改定についても検討していきます。